

1	76	臨床医学各論	整形外科	第6頸椎脱臼骨折による脊髄損傷患者の初期にみられるのはどれか。	呼吸停止	痙性麻痺	弛緩性麻痺	交代性麻痺	3
1	77	臨床医学各論	整形外科	膝半月板損傷でみられるのはどれか。	前方引き出し症状陽性	後方引き出し症状陽性	嵌頓症状	側方動揺性	3
2	73	臨床医学各論	神経	進行性筋ジストロフィー症について誤っている記述はどれか。	遺伝性疾患である。	デュシェンヌ型は青年期に発病する。	骨格筋の萎縮を生じる。	登はん性起立がみられる。	2
2	75	臨床医学各論	整形外科	頸椎後縦靭帯骨化症が多くみられる部位はどれか。	C1	C3	C5	C7	3
2	77	臨床医学各論	整形外科	脱臼の症状で誤っているのはどれか。	発赤	疼痛	変形	ばね様固定	1
2	79	臨床医学各論	整形外科	先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。	女兒に多い。	開排制限がある。	大腿内側の皮膚溝が非対称となる。	内反足を伴う。	4
2	80	臨床医学各論	整形外科	L5-S1椎間板ヘルニアの所見で誤っているのはどれか。	ラセーグ徴候陽性	膝蓋腱反射消失	アキレス腱反射消失	腓腹筋筋力低下	2
3	81	臨床医学各論	整形外科	大腿骨頭部内側骨折について誤っているのはどれか。	老人に多い。	下肢は外旋位をとる。	骨頭への血行は保たれている。	骨癒合に長時間を要する。	3
3	82	臨床医学各論	整形外科	骨粗鬆症について誤っているのはどれか。	閉経後の女性に発生しやすい。	海綿骨の骨量が減少する。	腰部疼痛の原因となる。	脊椎圧迫骨折があれば手術を行う。	4
3	83	臨床医学各論	整形外科	椎間板ヘルニアについて誤っているのはどれか。	脱出した髄核が神経根を圧迫する。	L5-S1間のヘルニアでは大腿四頭筋の筋力が低下する。	単純エックス線写真で椎間腔は狭小化する。	再発を繰り返す患者には手術を行う。	2
4	83	臨床医学各論	整形外科	疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。	変形性関節症——安静時痛	坐骨神経痛——腱反射亢進	脊柱管狭窄症——間欠性跛行	胸鎖関節——四肢麻痺	3
4	86	臨床医学各論	整形外科	骨粗鬆症で正しい記述はどれか。	骨の絶対量が減少する	脊柱は前弯する	血清カルシウムは低下する	骨皮質は厚くなる	1
4	87	臨床医学各論	整形外科	骨折について正しい記述はどれか。	粉碎骨折とは複雑骨折のことである	骨端部骨折では関節の機能障害を生じやすい	骨折部位を中心に約15cmの副子を当てる	骨に鋼線を刺入して牽引する方法を介達牽引法という	2
5	77	臨床医学各論	整形外科	脊髄損傷の合併症とその処置との組合せで誤っているのはどれか。	呼吸麻痺——酸素マスク	過高熱——副腎皮質ステロイド薬	褥瘡——体位変換	尿閉——導尿	1
5	78	臨床医学各論	整形外科	第4-5腰椎椎間板ヘルニアの症状で正しいのはどれか。	膝蓋腱反射消失	ラセーグ徴候陽性	アキレス腱反射消失	母指底屈力低下	2
5	79	臨床医学各論	整形外科	骨疾患で血液検査が正常なのはどれか。	脊椎カリエス	脊椎側弯症	上皮小体機能亢進症	多発性骨髄腫	2
6	81	臨床医学各論	整形外科	外傷性脱臼について正しい記述はどれか。	関節包は破れていない。	ばね様固定を認める。	習慣性脱臼と陈旧性脱臼は同じである。	整復後痛みがなければ他動運動を開始する。	2
6	82	臨床医学各論	整形外科	変形性関節症について誤っている記述はどれか。	成人の半数以上にみられる。	膝関節に好発する。	運動開始時の痛みが特徴的である。	強直を起ししやすい。	4
6	83	臨床医学各論	整形外科	骨粗鬆症について誤っている記述はどれか。	骨の化学的成分は正常である。	骨の絶対量は減少する。	閉経後に生じるのは高回転性である。	甲状腺機能亢進症でみられる。	3
7	79	臨床医学各論	整形外科	胸郭出口症候群の診断に有用なテストはどれか。	バトリックテスト	ライトテスト	ヤーガンテスト	ブラガードテスト	2
7	80	臨床医学各論	整形外科	スポーツ障害の組合せで誤っているのはどれか。	衝突症候群——水泳肩	上腕骨外側上顆炎——テニス肘	使いすぎ症候群——疲労骨折	絞扼性症候群——野球肘	4
7	81	臨床医学各論	整形外科	形態異常の組合せで正しいのはどれか。	先天性股関節脱臼——処女歩行遅延	先天性内反足——X脚	生理的内反膝——O脚	外反母指——間欠性跛行	1
8	62	臨床医学総論	整形	脱臼直後の処置として適切でないのはどれか。	整復	固定	冷却	関節穿刺	4
8	63	臨床医学総論	整形	骨粗鬆症で骨折にくい部位はどれか。	脊椎椎体	頭蓋骨	大腿骨頭部	腕骨遠位端	2
8	78	臨床医学各論	整形外科	変形性関節症でヘバーデン結節のみられる関節はどれか。	指関節	肩関節	股関節	膝関節	1
8	80	臨床医学各論	整形外科	第4-5腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。	ラセーグテスト陰性	膝蓋腱反射正常	下腿後面部の感覚鈍麻	大腿四頭筋萎縮	2
8	81	臨床医学各論	整形外科	小児の上腕骨頭上骨折について誤っている記述はどれか。	肘を伸ばして転倒したときに起こる。	筋皮神経が損傷されやすい。	上腕末端部に強い自発痛が生じる。	フォルクマン拘縮の予防が必要である。	2
8	84	臨床医学各論	整形外科	膝関節のスポーツ外傷で誤っている組合せはどれか。	前十字靭帯損傷——ラックマンテスト	内側側副靭帯損傷——外反動揺性	外側側副靭帯損傷——引き出し症状	半月板損傷——マクマレーテスト	3
8	95	リハビリテーション	整形外科	末梢神経損傷におけるリハビリテーションとその目的との組合せで誤っているのはどれか。	関節可動域訓練——拘縮の予防	自動助運動——筋の再教育	装具の装着——変形の予防	自助具の使用——筋力の強化	4
9	64	臨床医学総論	整形	誤っている組合せはどれか。	テニス肘——上腕骨外側上顆炎	野球肘——離断性骨軟骨炎	ジャンパー膝——膝蓋靭帯炎	平泳ぎ膝——外側側副靭帯炎	4
9	79	臨床医学各論	整形外科	先天性股関節脱臼について誤っている記述はどれか。	女兒に多い。	オルトラーニ徴候を認める。	大腿内側皮膚溝は非対称となる。	幼児期には腰椎後弯を認める。	4
9	95	リハビリテーション	整形外科	慢性関節リウマチの理学療法で適切でない記述はどれか。	全身訓練により呼吸運動の維持を図る。	関節可動域訓練は愛護的に行う。	筋力維持増強訓練は他動運動を中心に行う。	疼痛を軽減する目的でホットパックを用いる。	3
9	96	リハビリテーション	整形外科	変形性膝関節症について誤っている記述はどれか。	肥満は悪化要因になる。	進行すると外反変形を生じやすい。	大腿四頭筋の徒手抵抗運動を行う。	側方不安定性には装具を用いる。	2
10	64	臨床医学総論	整形	腰部脊柱管狭窄症にみられるのはどれか。	間欠性跛行	麻痺性跛行	失調性跛行	墜落跛行	1
10	80	臨床医学各論	整形外科	疾患とその特徴との組合せで正しいのはどれか。	原発性骨粗鬆症——アルカリフォスファターゼ値の異常	骨肉腫——老人に好発	脊椎カリエス——脊柱の運動制限	股関節脱臼——硬性墜落跛行	3



21	81	臨床医学各論	末梢性顔面神経麻痺でみられる症状はどれか。	嗅覚障害	対光反射消失	顔面知覚低下	味覚障害	4
21	82	臨床医学各論	ギラン・バラー症候群について正しい記述はどれか。	中枢神経障害である。	対称性の四肢脱力がみられる。	髄液検査で細胞数の増加を認める。	自然軽快は少ない。	2
23	58	臨床医学各論	筋萎縮性側索硬化症でみられるのはどれか。	膀胱直腸障害	感覚障害	嚥下障害	眼球運動障害	3
23	62	臨床医学各論	筋・腱疾患と運動機能検査の組合せで正しいのはどれか。	胸郭出口症候群 — ドロップアームサイン	腱板損傷 — ヤーガソンテスト	進行性筋ジストロフィー — ガワーズサイン	上腕骨外側上顆炎 — ファレンテスト	3
23	63	臨床医学各論	脊椎・脊髄疾患と身体所見の組合せで正しいのはどれか。	脊髄ショック — 痙性麻痺	頸椎捻挫 — バレー・リュウ症状	L3-L4椎間板ヘルニア — アキレス腱反射の低下	腰部脊柱管狭窄症 — 鶏歩	2
23	64	臨床医学各論	過度の動作と傷害の組合せで正しいのはどれか。	腰部前屈 — 腰部脊椎分離症	ジャンプ着地 — 膝蓋靭帯炎	ボールキック — 膝前十字靭帯損傷	バットの素振り — 手の舟状骨骨折	2
23	65	臨床医学各論	頸椎症について正しいのはどれか。	脊髄症型では一側の肩甲骨部の疼痛が起こる。	神経根型では深部反射亢進が起こる。	関連痛型では手術療法が第1選択である。	保存療法では頸椎牽引が有効である。	4
23	66	臨床医学各論	骨肉腫の初発症状でよくみられるのはどれか。	発熱	運動時痛	腫脹	間欠跛行	2
24	61	臨床医学各論	変形性関節症の엑ス線所見でないのはどれか。	関節裂隙の狭小化	骨棘の形成	骨嚢胞の形成	骨萎縮	4
24	62	臨床医学各論	骨粗鬆症の原因でないのはどれか。	クッシング症候群	コルチコステロイドの投与	ビタミンD欠乏	閉経	3
24	63	臨床医学各論	徒手検査と疾患の組合せで正しいのはどれか。	トムゼンテスト—頸肩腕症候群	ライトテスト—肘部管症候群	ファレンテスト—手根管症候群	ヤーガソンテスト—腱板損傷	3
24	64	臨床医学各論	装具と疾患の組合せで正しいのはどれか。	ミルウォーキーブレース—側彎症	ボストンブレース—斜頸	デニスブラウン副子—発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼)	リーメンビューゲル装具—先天性内反足	1
24	65	臨床医学各論	外傷性肩関節脱臼について正しいのはどれか。	若年者の初回脱臼は反復性に移行しやすい。	高齢者では上腕骨大結節骨折の合併はまれである。	後方脱臼が最も多い。	整復後は可及的早期に可動域訓練を開始する。	1
25	57	臨床医学各論	脊柱管狭窄を生じるのはどれか。	黄色靭帯肥厚	前縦靭帯骨化	横突起肥大	棘上靭帯骨化	1
25	58	臨床医学各論	生後3か月の発育性股関節形成不全の患児でみられるのはどれか。	アリス徴候	トレンデレンブルグ徴候	ドレーマン徴候	フローマン徴候	1
25	59	臨床医学各論	骨粗鬆症患者に好発する骨折はどれか。	鎖骨骨幹部骨折	橈骨近位部骨折	大腿骨近位部骨折	脛骨遠位部骨折	3
26	55	臨床医学各論	骨腫瘍で予後が悪いのはどれか。	軟骨肉腫	内軟骨腫	外骨腫	類骨腫	1
26	56	臨床医学各論	変形性股関節症の原因とならないのはどれか。	ヘルテス病	単純性股関節炎	外傷性股関節脱臼	大腿骨頭すべり症	2
26	58	臨床医学各論	頸椎症性神経根症でみられるのはどれか。	握力低下	腱反射亢進	尿閉	病的反射	1
26	59	臨床医学各論	骨密度が保たれていても骨折を起こしやすいのはどれか。	糖尿病	高血圧症	脂質異常症	高尿酸血症	1
26	60	臨床医学各論	スポーツ中に肉ばなれを起こしやすいのはどれか。	大殿筋	大腿筋	前脛骨筋	腓腹筋	4
26	72	臨床医学各論	関節リウマチについて正しいのはどれか。	男性に多い。	関節のこわばりは夕方が多い。	対称性の関節腫脹を認めることが多い。	遠位指節間関節の腫脹を認めることが多い。	3
26	73	臨床医学各論	股関節の関節可動域の測定について正しいのはどれか。	外転は側臥位で行う。	内転は坐位で行う。	屈曲は立位で行う。	伸展は腹臥位で行う。	4
27	57	臨床医学各論	骨粗鬆症における骨折危険因子でないのはどれか。	運動	喫煙	糖尿病	副腎皮質ステロイド薬	1
27	58	臨床医学各論	脊髄損傷の機能障害評価法で正しいのはどれか。	ブルンストロームステージ	バーセルインデックス	フランケル分類	ハミルトン評価尺度	3
27	59	臨床医学各論	脊椎疾患と所見の組合せで正しいのはどれか。	頸椎椎間板ヘルニア — 間欠跛行	頸椎後縦靭帯骨化症 — 膝蓋腱反射亢進	頸椎椎間板ヘルニア — 腰部脊髄神経根の亢進	腰部脊髄神経根の亢進 — 陰部のしびれ	4
29	49	臨床医学各論	生後3か月の女児が乳児健康診査で股関節開排制限を指摘された。診察で誤っているのはどれか。	大腿部の皮膚のしわを観察する。	開排位での大転子と坐骨結節間の距離を診る。	ラックマン徴候を診る。	超音波断層像を診る。	3
29	50	臨床医学各論	特発性側弯症について正しいのはどれか。	男性に多い。	前屈姿勢で左右の鎖骨の張り出しの差を診る。	コブ角は脊椎側面エクソ線写真で測定する。	早期発見には学校健康診断が重要である。	4
29	51	臨床医学各論	受傷直後の足関節捻挫に対するRICE処置について最も適切なのはどれか。	ギブス包帯を行う。	湿布を患部に貼付する。	損傷靭帯部を圧迫する。	患肢は頭より高く上げる。	4
29	52	臨床医学各論	デュシェンヌ型筋ジストロフィーについて正しいのはどれか。	女性に多い。	腓腹筋の板性肥大がみられる。	血清CK値は正常である。	関節拘縮のため踵足になる。	2
29	53	臨床医学各論	筋萎縮性側索硬化症に特徴的なのはどれか。	膀胱直腸障害	褥瘡	嚥下障害	眼球運動障害	3